

総務文教・福祉建設

総務文教委員会

委員長 岡島 剛

派遣された職員が被災地での活動を通じて多くの貴重な経験を積み、重要な学びを得られたことを確認しました。このような経験は、被災地の支援にとどまらず、本町の災害対策にも大いに資するものと再認識しました。

建物被害の認定調査においては、実地訓練や判定基準の理解を深めることに加え、外部の協力者を前提とした、マニュアルやシステムの作成、専門家を活用した効率的な調査の実施も、本町においても考慮すべきであると感じました。

職員の現地での活動経験が、防災訓練などに反映され、町民の皆さまの防災意識の向上に繋がることが重要です。また、自走式水洗トイレカーの導入などは、町の防災力を高めるためにも有効であると考えられます。議会としても、災害が起きたときに、少しでも被害が少なくなるような提言ができるように調査・研究してまいります。



福祉建設委員会

委員長 作野 桂子

今回は災害派遣された職員さんから現地での活動について、さまざまなお話を聞かせていただきました。

災害ボランティアセンターには災害発生時に全国各地からボランティアの方々が集まるため、備品や広い駐車場を事前に準備する必要がありますが、普段から多様な方たちとの関係を構築することが大切だと改めて感じました。

また、被災住民の方々はもちろんですが、災害対応業務に従事する公務員の皆さんも被災者であり、心身に大きな負担がかかる点や1人に大きな負担がかからないよう配慮することも大切だと感じました。

町民のみなさんには家族の命を守るために、日頃から災害に対する備えと避難経路などについて家族や友人、職場で話し合っていたことと地域でのコミュニティを大切にしていたかどうか、お願いします。

これからも議会として町の防災施策にしっかりと反映できるよう働きかけていきます。

